プレスリリース 2026年2月25日

「施工管理×新人教育×AI」プロダクトのグローバル市場ホワイトスペース検証レポート

— 5つの独立調査・15カ国以上・80以上のプロダクトを評価。3条件合致はゼロ —

日本AI施工管理合同会社（事業責任者：河東 里奈）

最終判定：3条件をすべて満たすプロダクトは
2026年2月時点で世界に存在しない

調査概要

日本AI施工管理合同会社は、同社が開発中の施工管理新人向けAI教育サービス「新人即戦力化AI」の市場ポジショニングを検証するため、5つの独立したリサーチエージェントによるグローバル競合調査を実施しました。調査範囲は15カ国以上・6言語に及び、スタートアップDB、特許庁（USPTO/J-PlatPat/WIPO）、学術論文、業界カンファレンス、ユーザーコミュニティを横断し、合計80以上のプロダクトを評価しました。

その結果、「①建設業の施工管理に特化」「②新人教育・オンボーディングが主目的」「③AI（LLM/ML）がコア機能」の3条件をすべて同時に満たすプロダクトは、いずれの調査においても発見されませんでした。

検証した3条件

条件	定義	具体的に含まれるもの
① 建設業の 施工管理に特化	ゼネコン・サブコン・工務店の 現場監督業務	日報、安全書類、工程管理、 品質管理を扱う
② 新人教育が 主目的	入社1〜3年目の 施工管理技士が対象	用語学習、日報作成支援、 業務チェックリスト、メンタリング
③ AI（LLM/ML）が コア機能	動的システムが 組み込まれている	チャットボット、自動生成、 パーソナライズ学習、進捗分析

調査体制：5つの独立した並行調査

調査	主な調査範囲	発見数	結論
A	15カ国・6言語。中国Glodonを深掘りしグローバル最近接競合を特定	50+	合致なし
B	日本市場詳細調査。KENCOPA・EdgeLab等の国内スタートアップを精査	13	合致なし
C	英語圏深掘り。VC資金動向分析。「コパイロットパラダイム」の構造分析	10	合致なし
D	施工管理SaaS・フィールドAI・日本ゼネコン社内ツール詳細調査	19	合致なし

E	多言語50件超精査。Space AI・Sundial・Tencent工程知識グラフ等を発見	**7**	**合致なし**

最も近い「ニアミス」プロダクト — 上位5件

#	プロダクト名	国	充足度	不足している条件
1	Glodon 天天項上 （広聯達・中国）	CN	2.5/3	32B LLM搭載。100+業務シナリオ。 ただし「全PM向け」であり新人特化なし
2	EdgeLab （東大発スタートアップ ）	JP	2.5/3	ベテラン暗黙知をAIで抽出。建設DXアワード教育部門受賞。 ただしアドホックQ&A;で体系的カリキュラムなし
3	BauBau AI （欧州）	EU	2/3	「新規採用者の教育支援」を明記。 ただし本質は技能工マッチングPF。施工管理でない
4	ANDPAD Stellarc （アンドパッド）	JP	2/3	ナレッジAI。「若手技術者の成長」を訴求。 ただし教育は主目的でなく業務効率化ツール
5	Edu建 （RaisePLAN）	JP	2/3	施工管理新人教育に最も特化（動画450本超）。 ただしAI機能は一切なし

地域別の調査結果

地域	最も近いプロダクト	充足度	市場の特徴
中国	Glodon 天天項上	2.5/3	建設AI市場世界最大級。全員が業務効率化に集中
日本	EdgeLab	2.5/3	大手ゼネコンが若手AI支援に着手開始
米国	BuildWitt	2/3	新人向け動画教育は充実。AI活用は業務自動化に集中
韓国	現代建設技術教育院	2/3	1977年設立の歴史ある教育機関。従来型
欧州	BauBau	2/3	BauBauは技能工向け。独はフィールドAIが存在
インド	L&T; GRACE	2/3	新卒向けゲーミフィケーション教育。AI未導入
豪州	BuildPass	1/3	日報・文書自動化AIが主流

なぜ存在しないのか — 5つの構造的要因

要因1：「コパイロット」パラダイムの支配

現在の建設AIは「熟練者の業務を速くする」設計思想に支配されている。業務から摩擦を取り除くこと（自動化）と、個人の能力を向上させること（教育）は同義ではない。

要因2：「オンボーディング」の意味のすり替え

施工管理SaaS側の「オンボーディング」は「ソフトウェアの使い方案内」として現れることが多く、「施工管理スキルを教える」という意味ではない。

要因3：暗黙知のデータ構造化が未完了

Y Combinatorが「建設トレーニングデータの構造化」をRequest for Startupsとして掲げるほど、ベテランの暗黙知はまだデジタル化されていない。

要因4：VC資金の投資先偏重

短期的ROIが証明しやすい領域（スケジューリング、積算、安全監視）に資金が集中。教育特化プロダクトへの投資はゼロ。

要因5：「Sink or Swim」文化の根深さ

業界の現場レベルでAIが若手を直接教育するパラダイム自体が認知されていない。需要が顕在化していないため供給もない。

特許・学術論文の調査結果

調査軸	結果	詳細
USPTO / Google Patents	**ゼロ件**	CPC G06Q 50/08 x G06N 20/00で2020年以降該当なし
J-PlatPat	**該当なし**	「施工管理」x「人工知能」x「教育」で合致する特許は未発見
WIPO	**該当なし**	国際出願で同条件の特許は未発見
Google Scholar / IEEE	**研究段階**	2023-2026年の論文は学術・学生向け議論が中心。商用化された実装なし

戦略的示唆

市場の三層構造と空白地帯

5つの調査が一致して描き出した市場構造は明確です。層1「施工管理の業務効率化AI」（Procore, Trunk Tools等）は厚く投資が集中しています。層2「建設業の一般オンボーディング/安全教育」（Connecteam, Edu建等）も存在します。しかし、その中間に位置する「施工管理新人教育AI」にプロダクトは存在しません。

カテゴリークリエーションの機会

当社のプロダクトは既存製品のリプレイスではなく、「AIによる暗黙知の教育」という全く新しいカテゴリーの創出（カテゴリークリエーション）です。ConTech市場において「教育が主目的」で「施工管理に特化」した「AIプロダクト」を投入する初の試みとなります。

タイミングの優位性

業界が「教育xAI」の価値に気づき始めている兆候が5調査で複数確認されました。飛島建設の若手AIエージェント（利用継続意向9割）、大成建設のOpenAI協業（1,000名規模）、KENCOPA（シード2億円）のAI推論ログの教材化、ANDPAD Stellarcの若手支援訴求など、大手企業が「若手xAI」に投資を始めています。これらの社内ツールが外販される前、既存SaaSプレイヤーが教育機能を追加する前に先行することが重要です。

> **「窓が開いている今が最も有利なタイミング」**
> **— 5つの独立調査が共通して導いた結論**

「世界初」に関する表現方針

「世界初」「No.1」等の最上級表示は景品表示法上のリスクを伴うため、調査範囲と時点を明示した条件付き表現を採用します。

推奨表現：

- **「施工管理新人の日常業務をAIで伴走する、2026年2月時点で市場に類を見ないサービス」（※自社調べ）**
- **「建設業における若手施工管理技士の育成と定着を生成AIで支援する、業界初※の教育型メンタリングプラットフォーム」**

「作業の『自動化』ではなく、現場監督の『育成』に特化した、市場で類を見ないAIプロダクト」

避けるべき表現：

「世界初のAI施工管理教育ツール」（立証困難・景品表示法リスク）

「唯一の」「他に存在しない」（悪魔の証明であり、1件の反証で崩壊）

※本レポートは5つの独立したリサーチエージェントの結果を統合したものであり、調査の網羅性には限界があります。特にステルスモードのスタートアップ、大手ゼネコンの非公開社内ツール、中国/インドのローカルプロダクトは検索に引っかかりにくい点にご留意ください。本レポートの有効期限は2026年8月頃を目安とし、3〜6ヶ月ごとの定期的な再調査を推奨します。

本件に関するお問い合わせ

日本AI施工管理合同会社

事業責任者：河東 里奈（カトウ リナ）

HP：https://sekokan-ai.co.jp

サービスサイト：https://shinjin.sekokan-ai.co.jp

お問い合わせ：info@sekokan-ai.co.jp

お問い合わせフォーム：https://sekokan-ai.co.jp/contact